

早稲田大学日本語教育学会 2010年秋季大会プログラム

開催日 2010年9月25日(土)

【会場】早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 201教室・202教室

【時間】受付 9:50~10:20 (22号館2階エレベーターホール)

開会式 10:20~10:30 (第1会場:201教室)

企画 10:40~12:40 (第2会場:202教室)

昼休み 12:40~13:30

ポスター発表 13:30~14:30 (第2会場:202教室)

口頭発表 14:40~16:55 (第1会場:201教室)

【企画】10:40~12:40

時間	第2会場(202教室)
10:40~12:40	活動型科目・テーマ型科目 EXPO 2010 秋 「それぞれの授業実践に至る道とこれから」 発起人:中山 由佳・金 龍男・古賀 和恵・高木 美嘉・武 一美・古屋 憲章 (早稲田大学日本語教育研究センター)

【昼休み】12:40~13:30

【ポスター発表】13:30~14:30

時間	第2会場(202教室)
13:30~14:30	(1) 初級日本語学習者に対するワークシートを用いた発音指導 神山 由紀子・小西 玲子・大久保 雅子
	(2) なぜという問いが持つ意義 — 日本語教育の視点から 秋田 美帆・山口 友里恵・伊藤 剛志・山本 晋也
	(3) 読解授業における他者との議論の可能性 — 自己を位置づけるプロセス — 山口 友里恵
	(4) 韓国人既婚女性のライフストーリーからみた「日本語社会」 孫 慶旻
	(5) 「参加者主体の場づくり」とは何か — 「にほんご あいあい」における実践者の意識の変容 — 福村 真紀子
	(6) 韓国における韓国人日本語教師の教育観の変容と実践との関係を考える — ベテラン高校教師へのライフヒストリー・インタビューと授業見学を通して— 崔 鉉弼

	(7) 中国の大学の日本語専攻学習者向け教科書による「使役」の扱われ方の分析 — 「使役表現」をどう教えるかを考えるために — 王 慧雋
	(8) 第三者への「～テサシアゲル」に関する一考察 — 「人間関係」に着目して 王 婷・邱 彦・任 麗潔
	(9) JSL の子どもが「読む」活動に参加するための日本語支援 — 「読むことができる自分」としての参加を支援する — 唐木澤 みどり

【口頭発表】 14 : 40 ~ 16 : 55

時 間	第 1 会場 (201 教室)
14:40~15:10	ことばの学習から獲得へ — 総合活動型日本語教育初級クラスの実践から 原 伸太郎・森元 桂子
15:15~15:45	予備教育課程における学びの場を人間形成教育の観点で捉える 木村 かおり
15:50~16:20	中国の大学・日本語専攻科教材における「日本文化」の考察 — 初級精読教材「総合日語1」を中心に — 喬 穎
16 :25~16:55	言語教育実践者のための言語政策記述フレームワークの開発について 福島 青史

【総 会】 17 : 00 ~ 17 : 30 (第 1 会場 201 教室)

【懇親会】 17 : 50 ~ 19 : 00 (22 号館 8 階会議室)